



投資信託の目論見書を開くと、「投資リスク」の欄に説明がびっしり。その項目の多さに投資意欲が削がれてしまう方もいるかもしれません。

しかし投資の「リスク」は、その投資信託で期待する「投資成果」と表裏一体のもの。「避けるべきもの」ではなく「成果を得るために付き合っていくもの」なのです。

今回は、コールセンターへのお問い合わせも多い「投資リスク」をおさらいしつつ、あまり聞き慣れない「有価証券の貸付などにおけるリスク」もご紹介します。

リスクは“成果の裏返し”。
まずはどんな種類があるか見ていきましょう。



リスクは「投資成果」と表裏一体

ファンドの投資対象が複数の資産にまたがっていれば、当然リスクもその資産ごとに発生します。リスクは投資する資産や地域に応じて生まれるため、「投資リスク」の前に書かれている「ファンドの目的・特色」を先に読んでおくのがおすすめです。例えば「海外資産に投資する」とわかっていれば、為替リスクやカントリー・リスクが伴うと心づもりができます。「この投資成果を得るために生まれるリスクなんだ」と理解しながら読み進めると、ぐっと分かりやすくなります。

「主なリスク」の一例

価格変動リスク	株式やREIT、債券といった投資対象の資産の価格が変動するリスク
金利変動リスク	金利の変動で主に債券などの価格が変動するリスク
流動性リスク	取引量が少なくなることで、有価証券の売買が成立しない、あるいは希望した価格で売買ができないリスク
信用リスク	有価証券の発行体における経営不振や過大債務などにより、倒産や債務不履行等が生じるリスク
為替変動リスク	外貨建資産の通貨に対して外国為替相場が円高になった場合に生じるリスク
カントリー・リスク	投資対象国における非常事態(金融危機や政策・規制変更、戦争など)で影響を受けるリスク

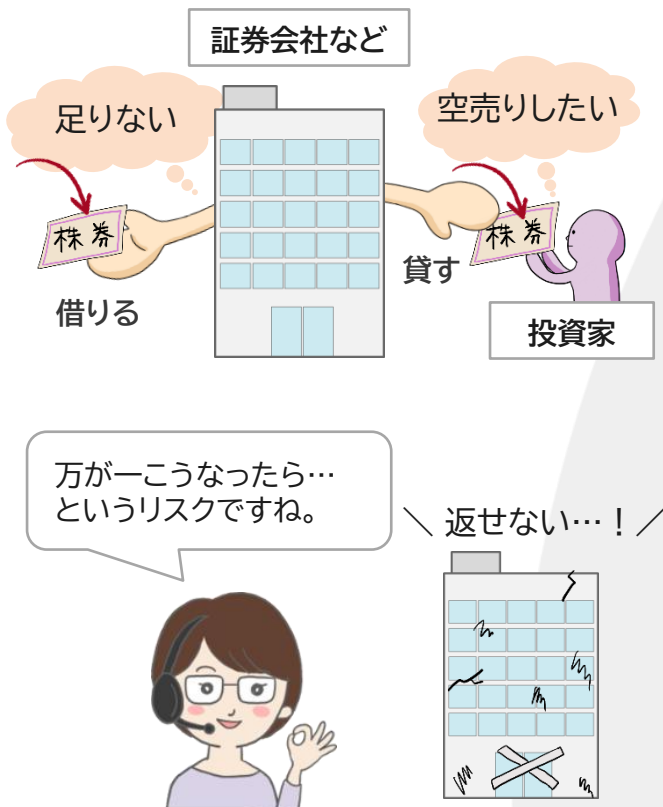
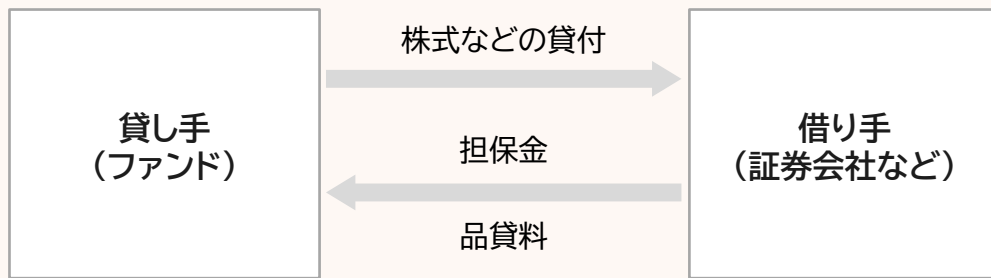
※簡易的にまとめたものです。

聞き慣れない「有価証券の貸付などにおけるリスク」って？

主なリスクの中でも、インデックスファンドなどで時折見かけるのが「有価証券の貸付などにおけるリスク」。運用に直接関係がなさそうにも見えますが、どういうものなのでしょうか。

「有価証券の貸付」とは、ファンドが保有する株や債券などを、証券会社などの第三者に貸し付ける取引のこと。借り手からは担保金とともに、対価として品貸料(しながしりょう)を受け取ります。この品貸料はファンドの収益となり、パフォーマンス向上につながります。貸付中も、その有価証券はファンドが保有しているとみなされ、基準価額の計算に使われます。

「有価証券の貸付」のイメージ



この取引が発生する背景には、投資家が証券会社などから株式などを借りて行なう「信用取引」があります。証券会社は空売り(株を借りて先に売り、後で買い戻す取引)に備えて株式を用意していますが、不足するとファンドなどから借りて手当てします。

「有価証券の貸付」を行なうにあたっては、相手先を慎重に精査するとともに、担保も取っています。しかし、貸付先の倒産などにより有価証券が返還されない可能性もあるため、これが「有価証券の貸付などにおけるリスク」として記載されているのです。

2025年9月1日付で、日興アセットマネジメント株式会社から社名変更しました。

当資料は、アモーヴァ・アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社

他にも知っておきたい「有価証券の貸付」に関するアレコレ

「有価証券の貸付」について、仕組みやリスクをご理解いただいたところで、運用の中でどのような役割を果たしているのかも見てみましょう。ここでは、知っておきたいポイントをご紹介します。

①実は「補助的」な取引です

「有価証券の貸付」は、あくまでファンドの資産を効率的に活かすための補助的な手段であり、積極的に活用するものではありません。ファンドは投資方針に沿って有価証券を保有し、状況に応じて売り買いを行ないます。貸し付けたことで「売りたい時に売れない」という事態は避けなければなりません。

②インデックスファンドと相性がいい理由

銘柄の入れ替わりが多いアクティブファンドに比べ、インデックス(パッシブ)ファンドは相対的に売買頻度が低い傾向があるため、貸付に向いていると言えます。

アクティブファンド

ベンチマークを上回る運用成果を目指すため、構成銘柄の調整など、**有価証券の売買の頻度が比較的高い**

インデックスファンド

ベンチマークに連動する運用成果を目指すため、構成銘柄の入れ替わりが少なく、**有価証券の売買の頻度は比較的低い**

ファンドの投資方針によって異なりますが、大きく分けるとこのような特徴があります。



③貸付の状況は「運用報告書」で確認できる

実際に貸し付けが行なわれた場合は、運用報告書(全体版)の「有価証券の貸付及び借入の状況」で確認できます。

最後に

投資をするなら避けて通れない「リスク」ですが、予め「どんなリスクがあるのか」を把握することは、資産運用を行なううえで、しっかりとした心構えを持つことに繋がります。先ほどの「有価証券の貸付などにおけるリスク」についても、内容が分かれば不安に思う気持ちも少し軽減されるのではないのでしょうか。資産運用は長い道のり。リスクへの理解も深めながら、投資信託と長くお付き合いいただければと思います。



コールセンター

0120-25-1404

営業時間 平日 9:00-17:00

